

資料 3 【参考資料】

【ろう者コミュニティ】

「デフコミュニティ」と言われることもある。手話の話者からなる社会であり、手話やろう文化が育まれてきた場所である。共通の手話を使い、同様の行動習慣や価値観を持つメンバーで構成されるコミュニティ。聴覚障害をもった者が皆デフコミュニティのメンバーであるとは限らず、手話を使用しなかったり、他のろう者と関わる機会をもたない者など、ろう者コミュニティに参加しない者も存在する。

ろうという属性を自分のものとして肯定的に受け入れていることや、他のデフコミュニティのメンバーに対して仲間意識を持てるかどうかが重要であるとされている。

【奄美大島のろう者コミュニティ】

奄美大島は九州南方海上にある群島のうちの一つである。マングローブや原生林があり、多くの天然記念物が存在する。

島の南部に位置する古仁屋地域にろう者コミュニティが確認された。(地図上の赤丸部分が古仁屋地域)

最も近いろう学校が、奄美大島から 450km 離れたところにしかなく、ろう児は通学が困難であり、1970 年以前に古仁屋地域で生まれたろう者は学校に通うことはなかった。そのため、島外の日本手話が島内に紹介される機会は少なく、島内独自の身ぶりコミュニケーション手段が発達していったとされる。



また、男性ろう者の多くは漁師として働き、女性ろう者の多くは織物工場で織工として働いており、男女問わずにきこえる島民と同様の職業機会があった。

ろう者ときこえる人の関わりが深く、双方によって身ぶりコミュニケーション方法が共有されていたコミュニティである。

【奄美大島に似たろう者コミュニティ】

奄美大島のろう者コミュニティに似た他の例として、アメリカのマサチューセッツ州に属するマーサズ・ヴィンヤード島も奄美大島と同様に、島内におけるろう者の割合が高く、きこえる人とろう者の双方に共通のコミュニケーション手段が確立されていたといわれている。他にもブラジル、メキシコ、ガーナにも古仁屋地域と同様の特徴を持ったコミュニティの存在が報告されている。